Muli Buti? ムリブティ?
Zambia からこんにちは!

JICA 海外協力隊　髙﨑夏帆
令和８年　No.3

任地 Monze に到着しました！

私は8月下旬に、首都を離れて任地である南部州の Monze モンゼ という町で暮らしております。今回の通信では任地派遣前の首都ルサカで行われた、現地語レッスンについてお伝えします。

Muli buti? はザンビアの南部で話されている現地語(トンガ語) で「How are you? 」という意味のあいさつです。返答は Kabotu!カボトゥ!「Good!」と伝えます。

さて、ザンビアには約73の部族があるといわれており、各部族によって言語が異なります。私が配属されている地域は、トンガ族という部族が多く居住しているため、トンガ語を勉強しました。首都ルサカに配属される同期隊員はトンガ語ではなく、ニャンジャ語を学んでいました。ニャンジャ語はお隣の国、マラウイで話されているチェワ語に似ているそうです。このように、同じ国でも話されている言語が違います。私達のトンガ語の授業は「とにかく話す。」新しい単語が出てきたと思ったらすぐにその単語を使って話す。メモは取るのですが、「Close your notebook」と言われ、インプットする前にアウトプットが始まる、、、そんな授業でした。また、不思議だったのは「数字は3まで覚えればいいよ。そっから先も一応あるけど、英語の方が通じるから。」という教えでした。せっかく10まで覚えたのに、、、と思いましたが、実際現地に行くと英語が通じ、現地の方とのコミュニケーションは問題なく取れることがほとんどです。しかし、スパルタアウトプットしまくり授業で、あいさつや買い物でのやり取りなど、沢山練習した甲斐があり、モンゼに来て現地語を話すと、地元の方がとても喜んでくださいます。日本人が少ないモンゼでは、町を歩くだけで、周りから視線を感じます。その際、現地語であいさつをすると、その視線も温かいものへと変わっていく気がしています。まだまだ、日常会話を流暢にするにはほど遠いですが、任地で活動する上でお互いの心の距離を縮める大きな鍵になる気がしています。

あっと言う間に1ヶ月の首都生活が終了しました。ザンビアはもうすぐ Cilimo(暑い乾期)どんな暑さがやってくるのでしょうか。現在は Mapeyo(寒い乾期)で冬です。どんな任地生活となるのでしょうか。また次号でお伝えしたいと思います。



日本にも来たことがあるトンガ語の先生



配属先の小学生♡



12 時間遅れもあり得るタンザン鉄道
ザンビアとタンザニアを結びます。